

平成30年度卓越大学院プログラム審査結果

機関名	東京農工大学		
プログラム名称	「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成		
プログラム責任者	梅田 倫弘	プログラムコーディネーター	宮浦 千里

〔採択理由〕

本プログラムは、「超スマート社会」の実現を目指し、農学と工学の技術シーズを結集し、産官学連携体制で教育することにより、新産業の創出に資する高度博士人材を育成することを目指すとともに、イノベーション創出に必須であるダイバーシティ教育を男女ともに徹底して行い、次世代の新産業創出を担う「卓越リケジョ」の輩出、さらには、「俯瞰力、独創性、ダイバーシティ理解、国際競争力と高度専門性を備えた卓越リーダー」を育成しようとするものである。研究者・技術者だけでなく、経営者として産業界を牽引できる高度博士人材を育成する点で卓越性を有する。また、ダイバーシティの観点から、理工系分野の女性研究者の育成に重点を置き、新産業創出の牽引者として育成する構想がユニークであり、評価できる。持続可能な開発目標（SDGs）に幅広く貢献可能な森林関連領域に着目したことも期待できる。

農学と工学の分野を併せ持ち、教員、学生ともに女性比率の高い大学として、今後の日本の競争力強化に資する教育・研究、人材育成を考える際に必要となる要素が網羅的に盛り込まれたプログラムになっていると言える。提案内容は具体的で必要性も認識しやすく、適切な広報活動によって国内外から優秀な学生が集まることが見込める。学位プログラムには、高度な「知のプロフェッショナル」として備えるべき要件をコンピテンシー化したコンピテンシー評価を含む評価システムが準備されている。また、グローバルでの活躍も視野に入れ、海外との連携も良好なものが構築されている。これまでに築いてきた企業や海外大学との連携を活用し、履修生が社会的ニーズや最先端技術に触れるとともに、シーズをニーズにつなげ事業化するために必要な多様なステークホルダーとの協働を実践する機会を提供することができるプログラムとなっている。

大学のマネジメント機構の中に「卓越大学院機構」が設置され、プログラムを全学体制で実施する大学院改革として位置付けられている。財源確保のための計画も具体的に立てられており、継続性が担保されている。

東京農工大学のこれまでの実績を含めた大学の特色・強みを生かし、フォーカスを明確にした上で農工協創人材を育成するプログラムであり、他の大学のロールモデルにもなり得るものであることから、計画の着実な実施と更なる発展に向けたブラッシュアップを望みたい。